

人形町

春号

VOL.135



〈特集〉「物の大切さ、を知る。」

物と上手に付き合う秘訣を、人形町の店主が伝授!

人之助がオススメのお店や会社を紹介。「人之助探訪」

人形町で頑張る若い店主を応援 VOL.10

春のイベントも盛りだくさん!

人形町 VOL.135 春号 Ningyocho 2015

平成27年3月1日 通巻135号 発行/人形町商店街協同組合 東京都中央区日本橋人形町1-18-9 03-3666-9064 題字/橋本友次 表紙イラスト/森本サツコ 編集制作/株式会社「有オプス・グループ」印刷/株式会社「アツリ」

人形町
いまむかし

それぞれの祭と 人形町気質

文・山田 譲司

優れた職人の作った道具や品を親や師匠などから受け継ぎ、それをまた子や弟子に託す。代々それを繰り返すことで物への愛着や歴史も受け継ぐことになるのでしょうか。町の伝統や習慣もこれらと同じように感じることがあります。

風薫る暁月、東京都内各地がお祭りの時期を迎えます。今年是人形町界隈でもお祭りで賑わい威勢の良い掛け声で御神輿を担ぐ光景を見ることができます。ただそれは一つの神社のお祭りだけではありません。他の地域とは全く違う人形町独特の氏子区域があることを是非知っていただきたいのです。人形町大通りの中央甘酒横丁交差点から四方に分かれる町会自治会が氏神とする神社が福森

未廣。神田、松島とそれぞれ違い、周辺で見れば七社ほどに分かれるのです。祭り好きには好都合の氏子重複の時代

江戸時代、市街を二分する、神田明神(神田神社)・山王権現・日枝神社(は公儀から祭礼費用が支出され、江戸城内への祭行列巡行を許されてきました。いわゆる「天下祭」と認識され、人形町界隈では地域にある稲荷祠、神社を厚く信仰しながら神田神社、日枝神社を崇敬するという重複した町々が多くあった氏子区域でした。人形町の人は祭り好きが多く、こゝあたりまえのことだったのかも知れませんが、明治になって周辺の武家地が浜町、蠣殻町と町地化し、氏子町名同人員帳」の作成をす

るなど氏神を一つにする動きがあり人形町は大きな選択を迫られます。町の人々それぞれの決断

明治初期、人形町周辺はほぼ全て神田神社の祭礼に参加した経緯がありますが、新材木町、新薬物町、堀留町(一、二、三丁目、岩代町、萱屋町、堺町、芳町、元大坂町の十町)現人形町芳人町会、三丁目、堀留町)が明治七年八月東京府に福森神社の氏子区域になることを願い出、また住吉町、難波町(現人形町二丁目)も嘆願書を提出し未廣神社の氏子になるなど、都内で、氏子八戸一神二限」の原則がほぼ確立するまでに先人達はそれぞれ熟慮し尽力を果たし、現在の氏子区域の確立がなされたのではないのでしょうか。地域の神社に伝統とこだわりと愛着を持ち守り受け継ぐ人形町気質祭りの光景と共に感じて頂きたいことです。



人形町商店街協同組合は応援しています。人とセラピードッグの心のふれあい。

ホームページ「人形町」 <http://www.ningyocho.or.jp/>

